

第16回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：平成27年2月25日（水）14：00～16：00

2 場 所：新宿住友ビル47階 スカイルームNo.4
新宿区西新宿2-6-1

3 出席者：（委員）

兼川 真紀（弁護士）

◎ 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

○ 黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）

斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）

榊 誠（公益財団法人あしたの日本を創る協会理事長）

高山 正也（独立行政法人国立公文書館フェロー）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

長屋 聡 官房審議官

磯崎 肇 企画官

4 議事次第

（1）資料館視察

（改修状況、企画展「未公開資料展—帰国にまつわる資料を中心に—」）

（2）「平成27年度平和祈念展示資料館の運営業務について（案）」の説明

（3）「平成27年度平和祈念展示資料館運営業務計画（案）」の説明

5 議事要旨

（1）資料館視察

資料館を視察し、改修状況、企画展及び運営状況等について説明が行われた。

（2）「平成27年度平和祈念展示資料館の運営業務について（案）」の説明

資料2に基づき、事務局から説明が行われた。

（3）「平成27年度平和祈念展示資料館運営業務計画（案）」の説明

委託事業者から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 戦後70年というタイミングは、関心も高まるため、体験者の証言を集める大きな機会となるのではないか。

- 資料説明について、キャプションに QR コードをつけることや音声ガイドの導入などで、さらに広がりを持たせた説明ができるのではないか。
- 展示解説は、来館者が理解を深める上で大切だと思うので、展示解説の体制を解説員の育成などにより充実させてほしい。
- リニューアル後の展示について、新しい資料が増え展示が充実するとともに、抑留者が手作りしたスプーンの大量展示などインパクトのある展示もあり、よくなったと思う。
- 人手や予算も限られるなかで、ツイッターは、情報収集だけでなく、情報発信にも役に立つため、広報ツールとして有効ではないか。
- 戦後 70 年の意味を考え、資料館としての企画を行ってほしい。
- 資料について、後世に残していくために適切な保存措置をとることは重要だが、資料に触れることで来館者の理解が深まることもあるので、レプリカでの対応を考えてほしい。